

## 問題抽出アンケート 2 次集計結果の概要

- 1 . 問題抽出アンケート 2 次集計について  
1 件の回答が複数の委員会の検討課題(テーマ)として扱われることが望ましい場合も考えられるため、これに対応した 2 次集計を行った。
- 2 . 回答数 58 社 / 110 社 ( 2004.1.15 現在 ) 1 次集計と同様  
回答率 52.7%  
回答件数 95 件 優先順位 1 位、2 位の回答を含む
- 3 . 当委員会に該当する内容  
1 ) 1 次集計 : 7 件 / 95 件 ( 7.4% )  
2 ) 2 次集計 : 8 件 / 95 件 ( 8.4% )
- 4 . 当委員会に該当する主な問題点  
2 次集計結果による、付加する項目は特に無し。  
1 ) 算出の根拠と方法、評価が不明瞭  
2 ) 企業間の比較が困難  
3 ) その他
- 5 . 機能と主体の分類
  - 1 ) 機能  
(1) 全体 . . . . 3 件 / 8 件  
(2) 輸配送 . . . . 5 件 / "  
(3) 包装 . . . . 0 件 / "  
(4) 流通加工 . . . . 0 件 / "  
(5) 情報 . . . . 0 件 / "
  - 2 ) 主体  
(1) 部門単独 . . . . 1 件 / 8 件  
(2) 部門間 . . . . 0 件 / "  
(3) 企業間 . . . . 2 件 / "  
(4) 業 界 . . . . 3 件 / "  
(5) 業界間 . . . . 2 件 / "

以 上

## 問題抽出アンケート 2次集計結果と第1回委員会における論点の整理

### 1. 問題抽出アンケートと第1回委員会における意見の総括（活動のニーズ）

- 1) 自社における物流・ロジスティクス活動の環境パフォーマンスを算出したい。  
環境会報告書等に数値目標、実績を明確にしたい
- 2) ベンチマーキング等により、自社の環境パフォーマンスを評価したい。

### 2. 課題

- 1) 環境パフォーマンス指標の統一化・・・12件 / 17件
- 2) 環境パフォーマンスの算定方法の統一化・・・13件 / "
- 3) 環境パフォーマンスの按分方法の明確化・・・5件 / "
- 4) 環境統合化指標の算定・・・2件 / "
- 5) 環境効率化指標の算定・・・2件 / "

### 3. 論点の整理

問題抽出アンケートならびに第1回委員会における議論は、L E M Sの活動(算出方法)、即ち「方策」に関わる議論が多く交わされている。

当委員会では先ず、環境パフォーマンスの算出および評価をするための枠組みを設計したうえで、方策に関わる検討をしたい。

なお、方策に関わる算出方法および評価方法は、現在「L E M S」委員会にて検討されている。当委員会ではL E M Sの検討結果を受けて、その検証を行い、方策に関わる合意形成を図り、標準的な環境パフォーマンスを整備し、広く啓発、普及していきたい。

### 4. 問題抽出アンケート 2次集計の回答

- 1) ベンチマークにより、改善目標を策定したい。  
【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】
- 2) IR活動で注目される環境会計、環境報告書に記載される環境活動への取り組み成果が定量化されていなく環境対策に対する投資基準が不明瞭。また他社とのベンチマーキングができない。  
【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】
- 3) 荷主に対して、業務を委託している会社がどのレベルにいるのか明確になる仕組みがあってよいのではないかと。(排出ガスの算定値などを統一して環境負荷に対する優劣を明確にする。)  
【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】
- 4) 環境パフォーマンスのデータ測定や、評価をどのように進めたら、より効果があるか。  
【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】
- 5) 食品三社共配の拡大を通じて、配送車輛の削減と大型化を実現し、排出ガスの削減を実施しているが、定量的に捉えるに当り、算出の根拠がいまいちわかりづらいと感じている。  
対象商品のくくりと算出基準の明確化が必要と認識。  
【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】  
【環境パフォーマンスの按分方法の明確化】
- 6) モーダルシフトの推進により、CO2削減の取り組みを実施しているが、これも対象商品のくくりが不明確と認識(原料の調達物流、原油、精油の拠点間輸送は含まれるか否か等)。また、環境報告書の中で、数値目標、実績を明確にしたい。  
【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】  
【環境パフォーマンスの按分方法の明確化】

7) 環境負荷を算出するための標準が定まっていない。環境省や国交省の実績（白書）等の数字は存在するが、荷主としての算出方法については特に明確な基準が無く、輸送を委託している荷主企業は独自の算出方法をとっており、実績に対して厳密な企業間比較が出来ない状況である。

【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】

8) 国際間輸送については特に、船舶・航空業界で正式な環境負荷算出基準が無く、関係省庁に確認しても基準の存在は確認できない。やはり荷主が独自に算出しなければならない状況で、国際間輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量の多さ（距離の長さ）から考えると、最優先で基準作りが求められる部分であると思われる。

【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】

#### 4. 第1回委員会の意見

1) 荷主として環境負荷を評価する場合、物流の合理化によってトラック台数を削減した場合など、重量ベースでは効果が見えてこないため、容積ベースで算出している。

【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】

2) パフォーマンスを捉える範囲、原単位、換算係数や複数企業間にわたる場合の按分方法等、標準化に至るまでの課題は多い。

【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】

【環境パフォーマンスの按分方法の明確化】

3) 二酸化炭素の排出、騒音・振動など、様々な環境負荷を統合させて、一つの指標とする、「環境統合化指標」という考え方がある。廃材をリサイクルする場合、輸送だけの視点では環境負荷が増加するケースもあるが、統合化して評価をすれば、環境負荷が低減するケースもあるのではないか。

【環境統合化指標の算定】

4) 共同配送等で複数の企業が物流諸活動に関わる場合の環境負荷の測定方法、評価方法、按分方法等が難しいのが現状である。当委員会の活動を通じて、業務で活用できるものを吸収したい。

【環境パフォーマンスの按分方法の明確化】

5) 物流企業として、どのような活動を行えば環境パフォーマンスの向上に結びつくのか、思案している。現状のトンキロ等の重量ベースの考え方では、物流企業として荷主系企業に貢献することが難しいのではないか。

【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】

6) 物流企業として、物流合理化を行った場合、その活動が評価されるような指標や測定方法を当委員会で検討して欲しい。

【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】【環境パフォーマンスの按分方法の明確化】

7) 京都議定書の削減目標にされている、二酸化炭素をどのように捉えるかが問題ではないか。また、環境負荷を低減する視点として、物流企業（特に輸配送）は燃料を指標として考えているが、荷主の立場としては、容積を指標として積載効率を優先する。

【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】【環境パフォーマンス指標の統一化】

【環境効率化指標の算定】

8) 環境負荷低減に取り組む活動を行った場合の公正な評価が必要である。そのためにも、比較可能な評価指標と方法が不可欠であり、当委員会の役割もそこにあるのではないか。

【環境パフォーマンス指標の統一化】【環境パフォーマンスの算定方法の統一化】

9) LCA的な視点も含め、当委員会で環境パフォーマンスを整備する必要があるのではないか。

【環境統合化指標の算定】【環境効率化指標の算定】

以上

## 問題抽出アンケート 2 次集計結果の概要

### 1 . 問題抽出アンケート 2 次集計について

1 件の回答が複数の委員会の検討課題(テーマ)として取扱われることが望ましい場合も考えられるため、これに対応した 2 次集計を行った。

### 2 . 回答数 58 社 / 110 社 ( 2004.1.15 現在 ) 1 次集計と同様

回答率 52.7%

回答件数 95 件 優先順位 1 位、2 位の回答を含む

### 3 . 当委員会に該当する内容

1 ) 1 次集計 : 13 件 / 95 件 (13.7%)

2 ) 2 次集計 : 18 件 / 95 件 (18.9%)

### 4 . 当委員会に該当する主な問題点

- 1 ) 生販各部門・各関連企業の業務プロセスが統合されていないため、物流が非効率。
- 2 ) 部門間、事業部間で生産方式や顧客サービスレベルが異なるため、物流統合が難しく、環境及びコスト面で非効率。
- 3 ) ロジスティクス全般でのトータルコスト削減・物流品質維持と製造部門における包装(梱包)費削減。
- 4 ) 荷主に対して、業務を委託している会社がどのレベルにいるのか明確になる仕組みがあって良いのではないか。
- 5 ) その他

### 5 . 機能と主体の分類

#### 1 ) 機能

(1) 包装 . . . . . 7 件 / 1 8 件

(2) 全体 . . . . . 4 件 / "

(3) 輸配送 . . . . . 3 件 / "

(4) 流通加工 . . . . . 3 件 / "

(5) 情報 . . . . . 1 件 / "

#### 2 ) 主体

(1) 部門間 . . . . . 6 件 / 1 8 件

(2) 業界間 . . . . . 5 件 / "

(3) 業 界 . . . . . 4 件 / "

(4) 企業間 . . . . . 3 件 / "

以 上

## 活動内容等に関するアンケート集計結果の概要

- 1 . 回答数 21 社 / 58 社 ( 2004.2.12 現在 )  
回答率 36.2%

### 2 . 活動テーマ

- 1 ) 共同物流 . . . . . 15 件
- 2 ) モーダルシフト . . . 13 件
- 3 ) 省資源 . . . . . 11 件
- 4 ) ユニットロード . . . 1 件
- 5 ) その他 . . . . . 2 件

### 3 . アウトプット

- 1 ) ガイドライン . . . 14 件
- 2 ) 事例集 . . . . . 11 件
- 3 ) 提言 . . . . . 10 件
- 4 ) その他 . . . . . 10 件

#### (1) 省資源活動の成果を客観的に表す指標の開発

輸送、積載、包装資材、保管、返品、流通加工など物流に関わる全ての活動を、最終的に CO2 の排出量に換算する手法を開発し、これを省資源活動の成果を測定する共通のスケール ( 例えば CO2 換算削減量 ) とすることが出来れば、サプライチェーン全体の評価をすることが可能となる。

モーダルシフト、包装の簡易化、通い箱の導入、積載・輸送効率の改善などを一定の計算式で CO2 排出量の削減値として導き出す手法。

#### (2) 改善対応の物流指標・物流デ - タベ - ス

#### (3) 物流業における A B C ( 活動基準原価計算 ) の研究

無駄な作業の削減 効率的な輸送

#### (4) モーダルシフトに関するインフラ整備、コンテナ開発

#### (5) 低公害車の普及支援

#### (6) CO2、NOX 削減効果の定量測定方式の標準化

#### (7) 出荷伝票類の省資源化

・出荷伝票を無くしたいという活動をしていきたい。

紙の伝票 伝票レス ノン伝票 という流れが考えられる。

例えば、受領書の押印がないとダメという考え方から進まなかった。

電子認証にして紙を一切なくしていきたい。

#### (8) 共同物流を推進するための人的ネットワーク ( その後システムに移行 ) の形成。

(9) 現在、環境に関する様々な規格・基準がある ( ISO14001、エコステージ、グリーン経営認証制度、エコアクション 21 ... )。これらの規格・基準に対し、物流業界として実施すべき方向性を明示したい ( 規格・基準がたくさん有るのはいいが、どれを実施すればより効果的なのか )。

#### (10) 省資源阻害要因と対応マニュアルの作成。

#### 4. その他

- 1) 全ての委員が、同じだけ汗をかき、同じだけ成果を得ることが委員会運営上重要と考えます。
- 2) 今回のアンケートテーマをたたき台にテーマを類型化し、分科会を設け掘り下げていけばいいのではないのでしょうか。
- 3) 総論では賛成できるが、各論では課題山積み、というような結論にならないよう、十分な議論をお願いしたい。  
例えば、排ガス規制はしたが、トラック不足、中小事業者の廃業により結果として、コストアップになってしまう、といったことがないように。
- 4) 行政サイドの積極的参加も必要と思う。
- 5) J I L Sで昨春グルーピングした部会に、共通課題として業界としての意見を求めても良いかと思う。
- 6) 半期ベースで委員会のスケジュールを作成して頂きたい。
- 7) 2つの委員会に登録させていただいているが、委員会の開催スケジュールによっては常時参加が不可能な場合もあり、代理メンバーの登録(極力固定)を考慮願いたい。

以上

## 問題抽出アンケート 2 次集計結果の概要

### 1 . 問題抽出アンケート 2 次集計について

1 件の回答が複数の委員会の検討課題(テーマ)として取扱われることが望ましい場合も考えられるため、これに対応した 2 次集計を行った。

### 2 . 回答数 58 社 / 110 社 ( 2004.1.15 現在 ) 1 次集計と同様

回答率 52.7%

回答件数 95 件 優先順位 1 位、2 位の回答を含む

### 3 . 当委員会に該当する内容

1 ) 1 次集計 : 16 件 / 95 件 ( 16.8% )

2 ) 2 次集計 : 38 件 / 95 件 ( 40.0% )

### 4 . 当委員会に該当する主な問題点

#### 1 ) 廃棄物の適正処理 ( 主に包装資材 )

(1) 廃棄物事業者に関する情報共有

廃棄物事業者の法令遵守など含む

#### 2 ) リユース・リサイクル ( 主に包装資材 ) の推進

(1) 包装資材などの廃棄処理費用とリユース・リサイクル費用のコスト負担

促進のためのインセンティブ

(2) 回収に関わる施設、輸配送の共同化 ( E D I 等の情報化含 )

リサイクル施設の受入容量拡大など含む

(3) 梱包仕様の共通化

(4) 国際輸送

紛失の可能性があるため、リターナブルケースが使用出来ない国がある

#### 3 ) リバースロジスティクスの構築

(1) 業界・業界間の情報共有

(2) 行政・消費者を含めた社会システム化

#### 4 ) 法規制

(1) 省庁連携、省庁・自治体間の連携

法令、条例等の簡素化、是正 ( 運用格差など )

#### 5 ) その他

(1) 新産業の創出

物流企業の競争力強化の源泉

## 5. 機能と主体の分類

### 1) 機能

- (1) 包装 . . . . 11件 / 38件
- (2) 全体 . . . . 10件 / 38件
- (3) 輸配送 . . . . 10件 / "
- (4) 情報 . . . . 4件 / "
- (5) 流通加工 . . . . 1件 / "
- (6) その他 . . . . 2件 / "

### 2) 主体

- (1) 業 界 . . . . 15件 / 38件
- (2) 業界間 . . . . 11件 / "
- (3) 企業間 . . . . 7件 / "
- (4) 部門単独 . . . . 3件 / "
- (5) 部門間 . . . . 2件 / "

以 上



## 委員会の活動テーマについて

委員会における活動テーマを具体化するため、問題抽出アンケート結果および第1回委員会の意見を以下のようにまとめた。

### 1. 問題抽出アンケートの回答と第1回委員会における意見の概要

- 1) リバースチェーン(業界)・・・33件
- 2) 法規制(業界)・・・10件
- 3) リバースチェーン(企業)・・・8件
- 4) サプライチェーン/物流(業界)・・・7件
- 5) 法規制(企業)・・・5件
- 6) サプライチェーン/物流(企業)・・・4件
- 7) 情報(業界)・・・3件
- 8) 廃棄物処理業・・・3件
- 9) 新規産業、事業・・・3件
- 10) サプライチェーン/商品(企業)・・・1件
- 11) 情報(企業)・・・1件
- 12) リバースチェーン(社会)・・・1件
- 13) リバースチェーン(国際)・・・1件
- 14) 法規制(社会)・・・1件

【図1 問題抽出アンケートの回答と第1回委員会における意見の概要】

課題		主体			
		A.企業	B.業界 複数企業による共同化含	C.社会	D.国際
1. サプライチェーン 当委員会からの提案事項	1)商品(製品) 形状、寸法、強度等	1件			
	2)物流 輸送、包装、荷姿等	4件	7件		
2. 情報		1件	3件		
3. リバースチェーン 物流の視点から3R推進	リユース	8件	33件	1件	1件
	リサイクル 廃棄				
4. 廃棄物処理業			3件		
5. 法規制		5件	10件	1件	
6. 新規産業、事業		3件			

2. 問題抽出アンケートの回答と第1回委員会における意見の整理

【図2 問題抽出アンケートの回答と第1回委員会における意見の整理】

課題		主体			
		A.企業	B.業界 複数企業による共同化含	C.社会	D.国際
1. サプライチェーン 当委員会からの提案事項	1)商品(製品) 形状、寸法、強度等	85			
	2)物流 輸送、包装、荷姿等	18,85, ,	62,63,86,93 75,79,84		
2. 情報		85	68,81,82		
3. リバースチェーン 物流の視点から3R推進	リユース	17,21,22,23	18,19,25,28 62,63,86,90		61
	リサイクル	24,85,76,	93,69,72,75 77,78,79,80		
	廃棄		81,82,84, , , , , , , , , , ,		
4. 廃棄物処理業			78,83,		
5. 法規制		86,87,73,74	52,91,70,71 73,74,83,	29	
6. 新規産業、事業		26,85,86			

1,2,3・・・：問題抽出アンケートの回答  
,・・・：第1回委員会の意見

3. 問題抽出アンケートの回答と第1回委員会における意見の概要への具体的アプローチ

アウトプットとなる調査報告書ならびにガイドラインを環境会議メンバーおよび産業界の環境活動の成果に結びつけるための材料とするため、以下のような業種からアプローチを行い、具体的な課題と目指すべき方向性を提示したい。

- 1) 家電、PC、OA 機器
- 2) 自動車
- 3) 建設資材
- 4) 食品
- 5) その他

## 第1回委員会の意見《議事録より》

問題抽出アンケートでも自治体の対応等が問題になっていることがわかる。リバースロジスティクスの視点から、各自治体の取組みを評価およびランキング化し、公表しても良いのではないか。

当委員会では名称のとおり、何らかの切り口で調査することがアウトプットの一つになるが、その中の事例から、現状や方向性等、何を引出すかが重要である。

リバースの分野は、商流の制約を受け難い領域にある。各社が共同でリバースロジスティクスの基盤を整備することが必要ではないか。

調査等を行う場合、部分的ではあるが各企業から発行されている環境報告書も参考になる。当委員会のなかで、勉強会を開いても良いのではないか。

業界の幾つかの企業でリユース、リサイクルを共同で行っている。その際に、共同で集荷したリユース、リサイクル品を各社の物流センターまで運ぶプロセスの構築が難しい。

リバースの分野は領域が広いので、当委員会としては実際に議論する範囲は限定した方が良い。しかし、マクロ的な視点として、リユース、リサイクルの対象となるものがどの程度あるのか、押さえておく必要があるのではないか。

輸送包装として、段ボールの回収、再利用が60%程度にはなっているが、小売業からの回収要請が依然として強い。関係者が積極的に知恵を出し合い、全体最適な仕組みを構築する必要がある。

各社のグリーン購入の現状や考え方について、情報収集を行いたい。

製品として一般消費者向けに提供している缶、ペットボトルの取組みは進んできている。今後は業務用として店舗に提供している冷蔵庫等が課題となるため、関係情報を収集し、対策を検討していきたい。

自動車等の部品を主に扱っている。一部メーカーの製品は包装を行わずに輸送し、無駄な廃棄物を出さないようにしているが、メーカーによって取組みに差がある。

自治体としてリサイクル施設を運営している。産業界の方々の意見を伺い施設の検証したい。是非、施設見学を行って欲しい。

111社にアンケート調査を行い、リバースロジスティクスの将来のあるべき姿を描きたい。業界として各企業が協調することによって、リバースの分野で共同化を行っていくためにも、法規制は現場の実情に合わせて弾力的に行って欲しい。

現在の廃棄物処理法は排出する事業者、処理業者の現状とマッチしていない。

但し、事業者の意識の問題も考慮しなければならない。

大学主催のコンソーシアムで業界横断的なE D I等を含めて共同化の仕組みを検討しているが上手くいかない。リバースの視点から業界が一体となった活動の必要性を感じている。

段ボールの回収しているが、小口で廃棄物として回収するのは法規制がある。

動脈と静脈の仕組みを一体化していきたい。

リサイクルポートに自社が所在する県が指定されていない。北九州市のエコタウンを事例として勉強したい。

議論する際の用語の定義や基準が不明確なため、論点がわかりにくい。

飲食店向けの業務用機器の処分に困っている。優良な処理事業者の情報があれば欲しい。

動脈と静脈で輸送モード（機関）が分割している。リバースロジスティクスを構築していく際の課題である。

以上